

## 令和3年度 第1回さいたまはーと推進協議会意見聴取結果

令和3年度第1回さいたまはーと推進協議会においては、書面による意見聴取を行ったため、各委員からの意見を下記に掲載します。

(意見聴取期間 令和3年6月2日～25日)

### 議題1：「さいたま自転車まちづくりプラン～さいたまはーと～」に掲げる各施策の取組状況について

#### 「たのしむ」施策に関して

(古倉委員)

- ・サイクルツーリズムに関して、広域ネットワークの構築、自転車活用に適した地域資源の開拓、対象者のクラスやテーマ、属性、季節等多様なシーンに応じた多様なツーリズムのきめ細かな設定(初心者は勾配、距離等が少ないコースなど、秋は〇〇コース、冬は■■コース、家族連れは△△コースなど)等のきめ細かな需要に対応した検討が必要と考えます。

(大島委員)

- ・イベント開催にあたっては、新型コロナウイルス変異株が蔓延している状況なので、より一層感染防止対策の徹底が必要と思われます。

(井上委員)

- ・彩湖では、各メーカーさんたちが試乗会を実施、秋ヶ瀬公園ではサイクルイベント、上尾のモトクロス場脇ではサイクルフリーマーケットが独自で開催されている。
- ・開催目的が違うが同日開催・スタンプラリー等連携を取り来場する方たちに「自転車っいろいろな楽しみが有る」と思ってもらえれば…。

(渡邊委員)

- ・サイクルイベントの掲載は多くの団体の実情を反映すべき。例えば：県サイクリング協会・市サイクリング連盟が何十年も続けている「乗れない人の自転車教室」は地味だが毎年自転車に乗れない人を乗れるようにするほかに、自転車交通ルール等についても講義を行っている事業です。最近子どもさんが多く、乗り始めの指導がとても重要です。

(韓委員)

- ・②-1, ②-2について。実際にMAPを手にとって活用したり、レクリエーションルートを走っている人がどのくらいいるのでしょうか。ターゲットはどんな層を想定していますか。

例えば子供達向けだったとしたら、市内小中学生の体育の授業や遠足でサイクリングルートを活用するとか、市の見るべき場所を網羅したコースを設定し、社会科見学の足で自転車を利用するとか。コロナ後を見据えて、インバウンドを意識したコースを開発するとか。

- ・MAPはサイトにあげてPDFをダウンロードしてもらおう…で満足せず、スマホで見ながら走れるようなGPS利用のアプリ形式などを検討してみてもいい。
- ・近隣市と連携の広域ルートの開発は良いと思う。
- ・③-1「さいたまは一と」を認知している人がどのくらいいるのか。意味が分からないのでは？と心配してしまう。市の自転車へ取り組みの存在を知ってもらうためにも、自転車まちづくりプランという副題？を必ず一緒に表記するなど実行した方が良いのでは。

(川島委員)

- ・①-2民間団体がサイクルイベントを行いたい時に、相談から開催まで一気通貫でサポートする窓口を整える必要があるのではないのでしょうか。(自転車、スポーツイベント、等の担当部署が多数あるため)
- ・①-2小型イベント開催支援サービスとして、“出前型”さいクルステーション(ラック、工具、のぼり旗貸し出し)をしてはいかがでしょうか。
- ・②-1宿泊場所をグランピング、コンテナ活用、キャンピングカー、民泊など、様々な形態で設置する必要があると思います。
- ・③-2サイクルパークの設置に対しての取り組みに、体験型ソフト施策を含めるのは違和感があります。それはまた別の方策なのではないのでしょうか。サイクルパークの設置が、もしも、現状非現実的な色合いが濃くなっているのでしたら、いったん白紙化して、あるべきパーク構想を再度立て直す、まったく別の方策へシフトする、などした方がわかりやすいと感じます。そのうえで庁内調整をすすめるべきではないかと思います。

(松原委員)

- ・公道、河川付近一時利用申請サポート、サイクルイベント開催時協賛、企業募集も併せて協力いただきたいと思います。

(大郷委員)

- ・コロナウイルス感染症の状況・対策を検討し、開催については慎重にならざるを得ない部分があるのではと思う。

(山本委員)

- ・交通ルールを遊びながら学ぶことができるシェアサイクルと連携したサイクルパークや交通公園を設置したらいかがでしょうか。

(吉村委員)

- ・新型コロナ元年にもかかわらず、ここまで取組めたことは素晴らしいと思います。

令和3年度取組予定

「クリテリウムさいたま」開催は難しいかもしれませんが、さいたま市の魅力を全国的に伝えることができるイベント。また、さいたま市は自転車の環境整備に力を入れていることを発信できるので、落ち着いたなら是非再開したいと考えます。

(北方委員)

- ・クリテリウムやサイクルツーリズムなどとても良い企画だと思いますが、自転車を普通に乘っている市民にとっては、ややハードルが高いように思います。
- ・今、とても気になっているのが、「健康」「楽しむ」「観光」という観点から企画されている東京都大田区の「はねぴょん健康アプリ」や「散走」のイベントです。日常の散歩や自転車走行にプラスアルファ程度の企画ですと、参加へのハードルも低く、尚且つ、楽しみながら自転車利用につながれると思います。当企画は、自転車利用に関してはまだ始まったばかりですし、安全の観点ではまだ不安もあると思いますが、大変注目すべき企画だと思います。さいたま市でも誰もが参加して、楽しめそうな、新たな「たのしむ」企画をご検討いただければ嬉しいです。

## 「まもる」施策に関して

(古倉委員)

- ・年齢層、属性等別に、内容や重点事項の設定が適当です。事故態様(単独事故が多いなど)、発生場所別事故原因(車道・歩道・交差点)、人的要因(認知ミス、判断ミス、操作ミスなど)、これのデータをしっかり取ったうえで分析し、エビデンスベース教育が望ましい。
- ・また、この場合に、ルール知識だけでなく、自転車乗用の際のミスや法令違反との関係などと事故との関係の解説によるルール遵守の必要性等の理解が望ましいと思われる(知識より理解)。

(小嶋委員)

- ・1-2のスケアード・ストレイト教育について、スタントマンで子どもを怖がらせる、という手法より危険な行動をとってしまうのか考えさせるとか、自分たちが安全な行動をとることで下級生の見本になる、地域の安全に貢献することになることなど、ぜひ子どもたちに主体的に考えさせるような機会にしていきたいと思います。(改定内容の資料からは、スケアード・ストレイトからシフトしているように見えますが、資料1でも資料3にも写真や語句で結構全面に押し出されているので)

(大島委員)

- ・研修会等を開催し、普通自転車や電動アシスト付自転車等の特性を理解した交通安全指導者の育成に力をいれてはいかがでしょうか。

(井上委員)

- ・ 自転車部品メーカーシマノの退職した方々や自転車文化センターの自転車教室で行っている補助者を外す練習を各地の公園で実施。
- ・ ロンドン在住のジャーナリスト青木陽子さんの話では小学4年生になると放課後に地区の方と街の中を自転車で一緒に走る交通安全教育を行っていると聞いています。

(渡邊委員)

- ・ 7月1日からのタンデム車公道走行が可能になります。タンデム車の正しい知識や交通ルール（普通自転車ではない）を広く市民に認知させる必要があります。

(韓委員)

- ・ ②-4について。以前も会合で申し上げた記憶がありますが、ドライバーへの啓発は重要。自転車の車道走行ルールについての認知、理解のない人が多い。タクシー、バス、トラック等プロのドライバー（協会などの団体へも）への呼びかけ、教習所や免許更新時の講習などでも取り上げていただきたい。伊豆や愛媛県などの思いやり1.5m運動など、分かりやすい呼びかけ方も参考にして検討すべき。

<https://cyclist.sanspo.com/311325>

<https://www.pref.ehime.jp/h15300/1-5m/1-5m.html>

- ・ ①-2 スケアード・ストレイトについて以前発言し、他委員も同意されていたと思うのですが、ただのスタントショーになっているきらいがあります。R3年度の取り組み予定では、少しトーンダウンされているようですが…あの方法を取り入れ続ける理由は何かあるのでしょうか。
- ・ ②-1「ピクトグラム」とは実際どんなものを作ったのでしょうか。広い意味での一定のデザインオリティを持ったもので運用すべきです。

(川島委員)

- ・ ①-2 交通安全教室の手法の見直しは良いと思いました。ただ、貢献目標に関連する取り組みにはまだまだ不十分です。さいたまは一とだけでは取り組み切れない非常に重い成果指標なので致し方ないのです。しかし、この成果を目指す取り組みとしては“ズレ”ております。
- ・ さいたまは一との取り組み範囲では対応しきれない重要問題です、と、関連する機関へ提起をしてはどうでしょうか。
- ・ ①-3 取り組み予定にある、課題・留意点が、何の取り組みで事故0にするのかが書かれていないので、何を取り組むことで0件としていくのでしょうか？
- ・ ②-3 サポーター認定者を増やすとともに、認定された人が、更に他の人に教えていく、という展開にしていくように、サポーターをきちんとサポーターとして活発化してもらうことも課題として設定すべきでは。(例/大先生からサポーター認定されたミニ先生たちは、自分の家族やコミュニティで1名以上にレクチャー活動を実施していただく、などの協力

を促す。)

- ・幅広い市民への交通安全を啓発する施策として活用できないでしょうか？さいたま市内での実施を協力して進めてみるのはどうでしょうか？ ⇒Uber Eats が公益財団法人日本サイクリング協会と包括連携協定を締結して配達員への交通安全啓発プログラムを進めており、JCA から講師を招き都内の自転車コースでの実技講習を実施、一部一般の人の参加も可能とする予定とのこと。

(松原委員)

- ・SNS、YouTube を利用した啓蒙活動を人気ユーチューバーとコラボレーションし、アーカイブとして残していく。

(山本委員)

- ・児童向けの交通安全教育は重要なので継続していただきたい。また、最近は電動アシスト自転車が増え、乳幼児を乗せた母親や高齢者が増加しており交通ルールやマナーも守られていないことが散見されるので、交通安全母の会や老人会等の関係団体と連携し交通安全教育を進めて欲しい。

(吉村委員)

- ・①と同様にここまで取組めたことは素晴らしいと思います。  
令和3年度取組予定  
交通安全教育の更なる実施だと思えます。またこの教育には警察の参加が必要不可欠と考えています。悔しいですが、私たち民間企業が担当するより警察が入ることで、引き締まります。なかなか開催は難しいかもしれませんが、ほぼ全ての安全教育において警察のご協力を得て進めるべきと考えます。

(北方委員)

- ・交通安全教育の観点で最も大切なことは、幅広い世代への教育はもちろんのこと、年代別の自転車利用形態や事故種別などに応じた教育だと思えます。
- ・P95 重点方策①-1「幅広い世代への交通安全教室の実施」、①-2「交通安全教室の実施」というタイトルが内容に合っていないように思います。①-1は「園児、小学生、高齢者、ドライバーへの交通安全教育の実施」。①-2は「中高生への交通安全教育の実施」というタイトルが分かりやすく良いのではと思います。
- ・中高生の安全教育に関してはスケアードストレイトのみの教育から、自転車のプロチームとの連携という新たな試みも実施して下さい、大変有難く思います。ありがとうございます。これにとどまるとことなく、「子どもたちが主体的に安全教育を考えられるような企画の検討も行う」という文面も追記頂けたら幸いです。
- ・当方のおすすめは、同じく自転車活用推進研究会の理事である藤本典昭氏による「見てわかる自転車安全教室」です。学校周辺の地域に特化した内容で、子どもたちの共感を得な

がら、共に考えて学べるスタイルは、今後の中高生への自転車安全教育を大いに変えてくれるものだと確信しております。ご希望がありましたらおつなぎさせて頂くことも可能です。是非ともご検討くださいませ。

## 「はしる」施策に関して

(古倉委員)

- ・ネットワークの整備順位などメリハリや全体の中で整備の優先度が見えてくるものが必要かと思われます。
- ・また、可能な限り、分離として、安全安心感の向上を図るとともに、整備のみならず、路線の快適性の確保のための管理（清掃などの間隔や方法など）の実施も必要かと思われます。

(小嶋委員)

- ・効果検証の取り組み、結果について、市民へ自転車通行空間の効果として情報発信いただくとともに、他市町村への参考にもなると思いますので、広く発信いただければと思います。

(井上委員)

- ・京都市では生活道路に矢羽根及び自転車マークを20m間隔で交互に設置したことで逆走自転車が減り交差点における事故も減っているそうです。(京都市自転車走行環境整備ガイドライン)

(渡邊委員)

- ・タンデム車解禁に伴い、自転車に乗りたい障害者をタンデム知識等を習得したパイロットによって「風を切る」楽しさを実感させてあげたい。そのために「パイロット養成講座」を至急開催すべきで、県協会は10月に予定を組んでいます。

(韓委員)

- ・①-1について、自転車ネットワーク整備路線の特色みたいな施策をやってみてはどうか。例えば自転車専用信号（交差点で自転車用が先に青になる）や、交差点の停止線直後に自転車溜まりを作るとか。信号機の青のタイミングが時速20kmだとノンストップで進めるとか（コペンハーゲンで実施）。

(川島委員)

- ・③-1 サイクルサポート施設の現在の提供内容（サイクルラック、工具、空気入れ、のぼり旗、トイレ利用、水のサービス）について、役立っている度合い、その他利用者側からのリクエストを確認して、必要に応じてより充実したものに見直していけたらよい。

(松原委員)

- ・「健康とサイクリング」を強く押し出し、Apple や Strava と連携しアプリを利用した取組を行うべきかと思います。

(山本委員)

- ・事業用自動車利用者の立場から、交差点等危険箇所の重点的な改善を早期に進めて欲しい。
- ・また、道路幅員等に基づく通行危険箇所のアンケート調査等を実施し、自転車利用者、ドライバー双方への周知、改善に努めて欲しい。

(吉村委員)

- ・パパ・ママ・・・の自転車安全講習会について、以前私たちが幼稚園の交通安全教室に伺った時、園長先生より保護者向自転車教室(交通ルール&3人乗り自転車教室)の依頼を受けました。幼稚園への交通安全教育の働きかけは重要だと思います。

令和3年度の取組予定

幼稚園+警察での教育も検討したらどうでしょうか?

(北方委員)

- ・P107 バス停と駐輪場の連携はもちろんのこと、駅とシェアサイクルの連携、表示も是非ともご検討をお願いしたいです。公共交通機関のひとつにシェアサイクルを追加していくご意向があるのであれば、なおのこと鉄道事業者との連携が不可欠化です。稼働率を上げていくことや、市民や観光客のインフラ整備を目指されるのであれば、駅を降りて、シェアサイクルを使うという導線を可視化して、アピールしていく必要性を感じます。

## 「とめる」施策に関して

(古倉委員)

- ・公共交通との連携により、自転車と公共交通がセットになって利用促進を図る方策が課題です。例えば、バス・鉄道利用者の範囲を徒歩圏から自転車圏に拡大すると、10分圏では徒歩で800m、自転車で2500mです。駐輪場の満空状態に応じて、空のあるような駅ではコロナで落ち込んでいる公共交通の利用の拡大と自転車利用の促進を交通事業者と連携して検討することも課題です。
- ・また、駅までの自転車利用について、駅ごとの自転車駐車場の需給バランス駅間の需給バランス等を考慮して利用促進・抑制の両側面から、総合的に検討することが課題かと思います。

(小嶋委員)

- ・1-6 利用者サービスの充実の今後の取り組みについて、指定管理者による独自サービスの推進について、評価の仕組み等によりぜひ進めていただければと思います。

(大島委員)

- ・撤去自転車の返還手数料については、実費相当分に見直す必要があるのではないかと。

(井上委員)

- ・スポーツバイク、特にスタンドの無い自転車の駐輪断り駐輪場がある、スポーツバイクによってはスタンドが着けられない物もある、スポーツバイク利用の急増でスタンドなし自転車の駐輪場利用が増える可能性がある。各駐輪場での自転車ラックの設置を要望

(渡邊委員)

- ・サイクルステーション（駅付近）の建設により、駐輪施設の充実やシェアサイクルの活用を図る一方、ステーションにはコンビニ、カフェ、フィットネスクラブの他シャワー、更衣室を備え都心通勤者に憩いの場所の提供をはかる。

(松原委員)

- ・アプリを使用することにより可視化され、SNS にアップすることにより本人がヘルメットをかぶっているかどうかなどを不特定多数の方が監視することにより、安全に走ることに注力する。

(金森委員)

- ・引き続き、首都圏放置自転車クリーンキャンペーン等を通じ、放置自転車削減に向けてできる範囲でご協力する。

(山本委員)

- ・改善されつつあると思いますが、今後も実態を把握し継続推進をお願いします。

(吉村委員)

- ・中国上海では、レンタサイクル用自転車1台ずつQRコードが付いていて、スマホで予約して借りることができる動画を見たことがあります。また借りた場所に戻さず別の場所で乗り捨ても可能だったと認識しています。正しく返却されなかったりするとペナルティが与えられるそうです。(まちがっていたらすいません)身近に借りて近場の観光ができ、正しく返却させる。興味を待ちました。国内外問わずいろいろな事例を参考にしてみるのも一案かと考えます。



## 議題2：さいたまは一と改定（素案）について

### 資料2に関して

（古倉委員）

- ・ 1. 71 ページの自転車利用の現状と課題では、10、14 ページなどで述べた健康・環境負荷をもう少し前面に出せないでしょうか（国の計画でもゼロエミッションを入れてもらいました）。特に、最近の世界的な動向では、SDGs を背景にして、同7や13などからのゼロエミッションや3から来る健康増進が大きなテーマになっており、これに対して自転車を活用する計画というグローバルな課題の解決のための施策という位置づけは非常に重要です。触れた方がよいと思います（状況がどんどん変化していますので、あえて述べておきます）。
- ・ 2. 78 ページや 80-82 での施策体系において、それ以前でせつかくしっかりと課題などを述べてこられたので、特に70、71 ページでとりまとめた課題のどれを解決するための施策か、すなわち、課題と施策とのつながりを、丁寧に説明を加えるなり、巻末資料などで説明された方がよいと思います。これでストーリーが連結され、わかりやすくなります。これが市民にも伝わって利用促進につながります。（つながりは、個々の施策ごとでなくても、いいと思います。たとえば、「自転車の保有率が非常に高い」であれば、この特性を十二分に発揮して、近距離の移動で最も重要視する交通手段として位置づけることとしたでもいいと思います）。
- ・ 移動全般に関する現状で、移動が減少して、しかも自動車が多用されていることから、健幸の増進が最大の課題であると考えたでもいいと思います。いきなり健幸が出てくるのではなく、前に述べた課題を受けていることがわかれば、より理解が進みます。
- ・ 3. 各論の施策 第五章以下については、87 ページのサイクルツーリズムでは、市民が週末等やテレワーク等の合間に繰り返し利用できるような季節、シーン、同伴者、グルメ、歴史等のテーマなどに応じた利用方法の提案なども含められると幅の広いものになると思われます。（このためには、各ルートに市内のどこからでも容易にアクセスする走行空間があればなおよいと思われます）また、街中回遊ルートで中心市街地などを散走できるようなルートも今後の課題（次のネットワークでも共通です）。その他、1 で述べた内容も課題であると考えます。

（小嶋委員）

- ・ 67 ページ：すべての項目で半数以上が否定的な意見ということで、その中の詳細な理由についても検討が必要かと思えます。（情報提供として何を望んでいるのかなど）
- ・ 113 ページ：1-5 について、市営施設についても指定管理者制度のような形で、民間の創意工夫で利便性を向上させていくことを明記した方がよいように思います。

(川島委員)

- ・適切な情報が追加されていると思います。
- ・さいたまは一とは、様々な部署での取り組みの情報のとりまとめをする事が主な取り組みとなりがちな性質があるところを、できるだけ減らして、市民が利活用のしやすくなるための自転車まちづくり施策の実施に軸足を置いていくべきだと思いました。

(山本委員)

- ・「5)震災時の有効性」については、職員の非常時対応に有効だと思います。

(吉村委員)

- ・素案の「まもる」について、交通安全教育は年齢(学年)と共に実施回数が皆無となる傾向です。運転免許証更新に講習時講習はあります。でも自転車の内容ではありません。この場において講習時講習に自転車の内容を盛り込むことを議論してもしょうがないので、いかに成人に啓発するかが大切だと思います。この成人対象の交通安全教育実施に目を向けたいですね。

(吉岡委員)

- ・P84 展開図 ③Love bicycle SAITAMA は令和元年度で終了していますので差し替えをお願いいたします。
- ・P90 ③-1 Love bicycle SAITAMA の写真について差し替えをお願いします。

### 資料3に関して

(古倉委員)

- ・1.4 ページで、追加路線を重ねていくことになると思いますが、ここに、通学目的、通勤目的、買い物目的等目的別によく使われる路線をレイヤーして重ねる(ただし、すでに採用されている場合は補完する部分でもいいと思います)ことも課題かと思います。
- ・特に、埼玉県は高校生の自転車通学事故が多いようですので、自転車通学に特化したネットワークの必要性は高いと思われます。
- ・目的別の路線をレイヤーで重ねることで、都市に必要な目的別の路線が浮かび上がり、その路線の説明が付きやすい(高校生の安全のためなど)。

(井上委員)

- ・本年7月1日から埼玉県も一般道をタンDEM自転車が解禁になります。視覚障がいの方たちは行動範囲が広がりますが、普通自転車と異なり歩道走行はできず、また一方通行(自転車を除く)の逆走もできません。障がい者施設の従事者や自転車関係向けに講習会が必要だと考えています。

(山本委員)

- ・「スポーツサイクル、サイクルツーリズムの盛り上がり等」が追加されたのは良いと思います。反面、盛り上がりに伴い、ルールやマナーの悪化も懸念されるので、違った視点も考えて欲しい。
- ・「自転車利用ルールの認知、遵守の状況」について、市民アンケート調査結果が追加され良いと思う。これら情報を交通関係団体と共有し、対策に活かしてもらえればと思います。

(吉村委員)

- ・さいたま市自転車走行環境効果検証会議にも参加していますので、こちらの観点からも踏まえて、さいたま市と警察の考えに意見の相違がありました。なかなか双方納得は難しいかもしれませんが、そのようなハードルを乗り越え、整備を進めていきましょう。

## その他意見等

(古倉委員)

- ・巻末又は別途でもよいので、この計画を一般市民に分かりやすく理解してもらう広報などがあるとより協力が得られる又は自ら自転車にもっと乗ってもらうような気持ちになるような気がします。

(大島委員)

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、様々な事業が中止や規制を受ける中での事務局の皆様の「さいたま自転車まちづくりプラン」の改定素案の作成ご苦労様でした。すばらしいプランの作成に感謝いたします。

(井上委員)

- ・毎年子供の出生は全国で約 84 万人とされています。このうち双子以上の多胎児の出生は約 1%あるとされています。パパママ自転車安全推進サポーター事業で幼児二人乗り電動アシストの購入補助ですが、この補助で購入できる自転車では双子は乗れません、車種拡充の検討を。
- ・高齢者の免許返納で電動自転車の購入を考えてご来店されますが、身体に障がいがあり市販の自転車では乗れないことが多々あります。足立区では、障がいのある方が乗れる自転車の購入補助があります。一考してください。

(韓委員)

- ・リアルな会議が難しい場合はリモート形式での開催でも構いません。

(川島委員)

- ・様々な団体の様々な委員からの多様なご発言がある活発な会議でありたいと思います。

(松原委員)

- ・各 SNS、インターネット、YouTube を上手に利用することが、人・クルマ・自転車が円滑に共存でき安全につながるかと考えます。

(吉村委員)

- ・オンライン開催でも良かったのではないのでしょうか。

(北方委員)

- ・さいたまは一と進捗管理シート P 5 の交通安全教室の動画を拝見しました。どのようなところで利用、PR しているものなののでしょうか？また、今回のように紙面に URL を記載する場合は、QR コードを生成して掲載頂けると親切ですし、観て頂ける回数が増えるかと思えます。参考にさせていただけたら幸いです。
- ・いつもお世話にありがとうございます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

以上